



## 母ちゃんは技術者を続けられる，か？

佐藤（金子）のぞみ<sup>1,2</sup>

私は現在、個人事業主の環境コンサルタントとして、GIS/リモートセンシングの解析やスマート農業関連プロジェクトに携わりつつ、三重大学大学院生物資源学研究所にて社会人ドクターを四苦八苦して続けています。今回、「土壌の物理性」に論文が受理され、学位取得の光が見えてきました。常に辛抱強くご指導くださる渡辺晋生教授を始めとする先生方、丁寧に見てくださった査読者と編集委員の皆様にご心からお礼申し上げます。以前は東京の建設コンサルタント会社で十数年働いていたのですが、出産と夫の三重転勤に帯同したことで失業し、個人事業主となりました。今はまた転勤して、中国の上海で夫と8歳の息子と3人で暮らしています。今回は土粒子の執筆機会をいただいたので、母になって悩み続けている標記について、私を感じるハードルと対策（みたいなもの）を語らせていただきます。読者層が合わないことを承知しつつ、土壌物理学会にも若い女性会員が増えていようなので、これから就職する方やお母さんになる方の参考になれば幸いです。また男性の方にも、ご自身のパートナー（まだ見ぬ未来を含む）や周りの働くお母さんを思いやるきっかけになるとありがたいです。

### ハードル1 改姓

改姓によって築いてきたキャリアが分断されます。技術者は技術士の資格登録を行い、自身が担当した公共機関の発注業務を業務実績データベース（TECRIS）に登録することが必須です。自分の名前に資格と業務実績、その評価点がつき、それが公共事業の受注可否を左右します。改姓すると氏名の変更手続きが必要になり、旧姓を使い続けるか、新姓に変更するかを選択します。正式に登録すれば改姓後もデータベース上は同一人物ですが、仕事上の通称と本名が違うのは違和感があります。特に海外プロジェクトでは、プロジェクトの登録技術者名とパスポートの記載名が違うと問題が生じます。パスポートに旧姓併記もできますが、条件が限られます。改姓は仕事上の不利益が多く、自分が使ってきた名前でも仕事も人生も続けたいと思うのが自然です。

改姓に伴う手続きは膨大です。私が覚えているもので、パスポート、運転免許証、技術士、TECRIS、CPD、健康保険、年金、確定拠出年金、郵便局口座。その他に

銀行口座、クレジットカード、民間保険、航空会社、学会などはそれぞれ複数団体への手続きを要します。研究者登録や証券口座、マイナンバー等が必要な人もいるでしょう。所属先の事務が行う手続きもありますが、個人事業主だと自己処理です。各団体に一つ一つ申請して、申請する側も受理する側も人件費の無駄でしかありません。一度に処理しきれず、数年後に思い出して手続きをする度に、家単位の戸籍制度を恨めしく思います。

やはり選択的夫婦別姓は必須です。この点で中国は強固な個人単位の戸籍制度があるらしく、結婚しても名字は変わりません。またアメリカでは旧姓をミドルネームにする人がいると聞いたことがあり、自分の名前を引き継げる制度が羨ましいです。私が常に論文や名刺に旧姓を併記するのは、ミドルネーム感覚とアイデンティティの継続であり、改姓への小さな反抗です。そして私の父は、旧姓が併記された私の論文を見てとても喜んでいました。私は事実婚でいたかったのですが、子供の戸籍と親権の問題があって入籍しました。現状の日本では、お子さんがいなければ事実婚がよいと思います。

### ハードル2 時短勤務

保育園や学童の送迎時間、幼児期は10時間睡眠を確保することを考えると、育児時短で早めに終業しないと家事育児が回りません。個人事業主だと時間の裁量が自由ですが、もし東京で会社勤めを続けていたら、母子ともに潰れていたでしょう。当時の建設コンサル業界は残業と長時間労働が前提で、それができないと居場所がない世界でした。お母さん技術者の状況に配慮して、業務量を軽減して時短勤務を容認してくれる寛容な職場だったら、技術者を続けられる望みがあります。

また法律では、事業者は子が3歳になるまでは従業員の時短勤務を認める必要があります。それ以降は努力義務です。3歳からフルタイムに戻るのとは不可能だし、小学生の間は心配ごとが多いです。就職先には、育児時短勤務が長い職場を選ぶことをお勧めします。就職説明会などで、「正社員の女性技術者は何名ですか。そのうちお母さん技術者は何名ですか。」と質問してみてください。長く働ける職場かどうか、判断指標になると思います。ここで「正社員の」と聞くのがポイントです。育児時短勤務の延長を希望する正社員を、パートや契約社員に雇用変更する会社があります。会社側は「女性が多様に働

<sup>1</sup> 技術士事務所 SoilCares, <sup>2</sup> 三重大学大学院生物資源学研究所  
2024年10月14日受稿 2024年10月15日受理

ける職場」を自負しますが、実態は就業規則を柔軟に運用せず、業務内容は同じままでお母さん社員を降格しているように見えます。モチベーションと経歴に大きく影響するので、正社員を維持できる職場を探しましょう。

### ハードル3 出張

コンサルタントは現地調査と打ち合わせが多く、会社勤めの時は全国各地へ出張をはしごする日々でした。母親になると出張はできなくなります。近隣の現場や発注者の業務を担当するか、内業（データ収集整理、解析、報告書作成等）に専念するか、職場に配慮をお願いするしかありません。私は個人事業主になってから三重県内とテレワーク主体の業務だったので、出張は稀でした。ただ、大きなイベント（農研機構の会議、学会、研修会の主催等）で出張が必要な時は、数ヶ月前から家族と調整し、直前までの準備が大仕事です。子供のトリセツを年齢に応じて更新し解説する、保育園・学校の必需品一式を並べておく、冷蔵冷凍庫をお惣菜で満杯にする等々。準備万端にして極力短い出張期間で出かけても、「ひどい母親だ」「お父さんが大変、可哀そう」と言われることがあります。仕方がない。世代・性別を問わず、母親が付きっきりで子供の世話をするものだと考える人はいます。しかし、母親にだって自由に移動する権利と業務責任があります。最近の父親はイクメンが普通だし、家事もできます。子供の安全が確保できて、家族の合意が得られれば、短期の出張は可能です。私の場合は幸いなことに、夫の会社は家事情で在宅勤務を認めてくれますが、パートナーの所属先の自由度も母親の就業やキャリア形成に影響します。息子は「母ちゃんがいなくても何とかできる」と言ってくれるので、自信をもって出張に行くようにしています。

また、子連れで出張に行くこともあります。大変だけど母子旅ができて楽しいです。特に託児ありの学会があると、参加のハードルが下がります。大学内の託児所では教養学部生の手作りおもちゃで遊んだり、馬術部のお馬さんを見に行ったりと、子供も普段はできない経験ができて喜んでいました。ただ「小1の壁」に当たると託児所が利用できなくなります。そんな子供達（外国人研究者のお子さんが多い）が、会場の休憩室に集まることがあります。温かい目で見守ってください。うるさくしていたら、「お勉強している人もいるから、小さな声で話そうね」と注意していただくと助かります。

### ハードル4 育児のアウトソーシング

これができたらハードル2と3は解決、技術者を続けられます。育児は家庭内だけでするものではありません。条件が許せば、親でもベビーシッターでも外部人材を活用すればよいのです。私の場合、晩婚の高齢出産で遠方に住む高齢の親は頼れず、ベビーシッターを雇える収入もありません。フルパワーで働くことは諦めて、中途半端な技術者と母親をしています。

育児をアウトソーシングできることに気づいたのは、中国に住んでからです。中国では祖父母が子供夫婦の元

へ移住して、孫の世話をしています。「阿姨（アイ）」とよばれる家政婦が、住み込みで家事育児をする家庭もあり、母親はフルタイムで働き出張へ行き、管理職に昇進します。阿姨さんは大体が地方の農村部出身の女性で、依頼主は都市部の富裕層です。乳幼児のお散歩から幼稚園や学校の送迎、病院の付き添いまで、外で子供と一緒にいるのは祖父母か阿姨さんが多いです。中国に学童がほとんどないのは、祖父母と阿姨さんの育児システムにより学童のニーズが少ないのかもしれませんが。こういった習慣は、人材が豊富で多様な社会だから可能なのだと思います。高齢化と人手不足を抱え給料が伸び悩む日本では、祖父母やベビーシッターが育児を主担当するのは難しいでしょう。

### おわりに

どのような働き方ができるのかは個人の環境条件によって異なるし、子供の成長によっても変化します。家庭全体の収入と支出、パートナーとの役割分担、育児アウトソーシングの可否、所属先の福利厚生、ポジションと給与、転職の可能性等々を踏まえて判断していきます。決断に迷った時、私は「お母さんが笑顔でいられるか」という点を考慮しました。母親が仕事と育児に疲弊した状態が続くと悲惨です。常に笑っている必要はないけど、家族とゲラゲラ笑う余裕を持てるのが理想です。また方針を決める際、母親のキャリア意向は軽視されます。私は時に「今頃は海外プロジェクトにアサインされて、途上国の持続可能な農業に尽くしているはずなのに、どうして上海で洗濯物を干しているのだろう」と落ち込むことがあります。仕方がない、諦めるしかない。子の健やかな成長に勝るものはありません。子供に母親が欠かせない期間は一人当たり約10年、お子さんの人数によって $+\alpha$ 年、この期間をいかに繋いで、技術者として細く長く生き残る方法を考えます。

個人事業主は勧めません。社会保険や確定申告などの事務手続きが煩雑で、収入も不安定だし孤独です。会社に所属した方が収入もプロジェクトの規模も大きいし、社会的な立場が保証されます。私が個人事業主でも自称技術者を続けているのは、一度やめると戻れないことが分かっているからです。そして何より、調査・解析・検討・取りまとめといった一連の流れが楽しく、脳が活性化して生きていることを実感できるからです。どんな形でもいいから続けていると、救いがあります。先日は農業農村工学会で優秀報文賞をいただき、子供の学校のお迎えにスキップで行くほど幸せを感じました。そして何より、大学の先生方や農業生産者、女性起業家など、前向きに挑戦を続ける人達との素晴らしい出会いがあります。私がこれから先も技術者を続けられるかは分かりません。ただ、母ちゃんが技術者を続ける過程において、社会制度に採られながらも多くの人に助けられ、救われるという事実があります。自分もいつか逆の立場になれたらいいと思いながら、今日は前向きな気持ちで洗濯物を干そうかな。